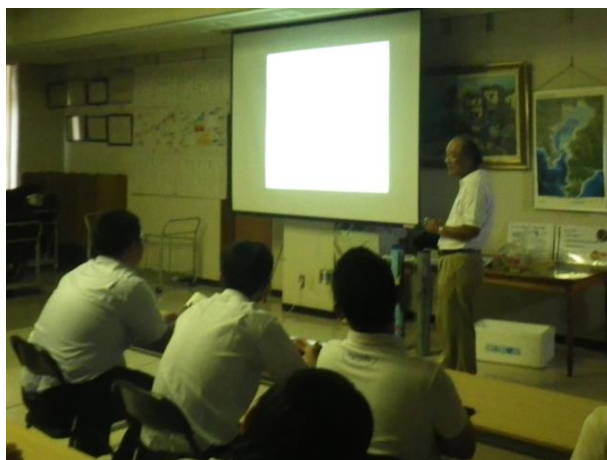


**●浜の話題**

- 8月20日、横須賀市大楠漁協所属の漁業者は、かながわブランド「佐島の地だこ」について取材を受けました。当日はオリンピック金メダリストの柔道家が現地を訪れ、茹でたての地だこを味わったそうです。当日の様子は、NHKBSプレミアム『釣りびと万歳』で9月23日日曜日17時30分から放映予定です。
- 8月20日、腰越漁協所属の飯岡丸さんは、インターンシップとして県立海洋科学高校の生徒を受け入れました。参加した生徒は、5日間にわたって遊漁船の業務を体験したそうです。
- 8月21日、横須賀市大楠漁協は、磯焼け対策の一環としてガンガゼ駆除を実施しました。当日は8名の漁業者が参加し、素潜りでおおよそ500個のガンガゼを駆除しました。
- 8月24日、横浜市漁協柴支所において、11月10日土曜日に開催予定の「柴漁港 秋のさかなフェア2018」の検討会が行われました。例年、新鮮な魚の直売やタッチングプールなどのイベントがあり、多くの方が来場します。検討会では来場者に喜んでいただけるように、イベント内容、運営について熱心に議論が交わされました。
- 8月24日、神奈川県定置漁業研究会は、県水産技術センターとの共催で「平成30年度相模湾定置網漁海況予測説明会」を同センター相模湾試験場で開催しました。同センター職員から「平成30年上半期の漁海況経過と下半期の見通し」、「アシストスーツ導入への課題と今後」、「最近のイワシ類の漁獲動向」について説明がありました。当日は台風20号の通過直後であったため、例年より来場人数は少なめでしたが、漁業者10名を含む18名の関係者が来場しました。
- 8月27日から29日にかけて、横浜市内で「全国水産業普及員研修会」が開催されました。これは、全国から水産業普及指導員が出席して、普及業務に関する研修や議論をするものです。最終日には、横浜市漁協柴支所への視察があり、同支所の斉田芳之理事（金亀丸）による横浜市漁協の漁業や地域貢献の取り組みに関する講演を聴きました。全国の普及員は、横浜のような大都市で漁業が営まれていることに大変感心していました。



横浜市漁協柴支所での研修の様子

- 8月31日、みうら漁協は（公財）神奈川県栽培漁業協会のあっせんにより、全長6cmのカサゴ稚魚を松輪地先に5,000尾、諸磯地先に1,000尾放流しました。これらの種苗が今後、地先のカサゴ

資源の増大に寄与することが期待されます。

- 8月31日、茅ヶ崎市漁協は市の支援を受け、全長約6cmのヒラメの稚魚3,000尾を茅ヶ崎漁港東岸沖に放流しました。今後の地先資源としてヒラメの漁獲増が期待されます。

## ●お知らせ

- 9月30日曜日8時30分から、「腰越漁協みなとまつり」が腰越漁港で開催されます。同漁協の朝どれ地魚や地魚フライの直売、地魚やワカメが入った浜汁の無料配布のほか、マダイの稚魚放流や船釣り体験（いずれも先着順）など、腰越の海を満喫できるイベントが盛り沢山なので、皆様是非ご来場ください。

腰越漁協みなとまつり URL : <https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kamakura-kankou/event/0927kosigoegyokyoyouminatomaturi.html>